

発掘ニュース

平成13年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#)

4/5更新

伊勢国府跡が国の史跡になりました。

広瀬町字矢下・長塚・南野

3月19日に官報告示され、正式に伊勢国府跡として史跡指定されました。



史跡指定の範囲

天王遺跡(8次)

岸岡町字天王（厚生病院内）

3月16日にラジコンヘリを使って全体の航空写真測量を終え、ようやく発掘調査も終了しました。3月23日には現地的一般公開を行い約50名の参加がありました。

現地説明会資料は[こちら](#)(PDFファイル406KB)

閲覧にはAdobe社のAcrobat Readerが必要です。



ラジコンヘリを使っでの撮影



現地一般公開

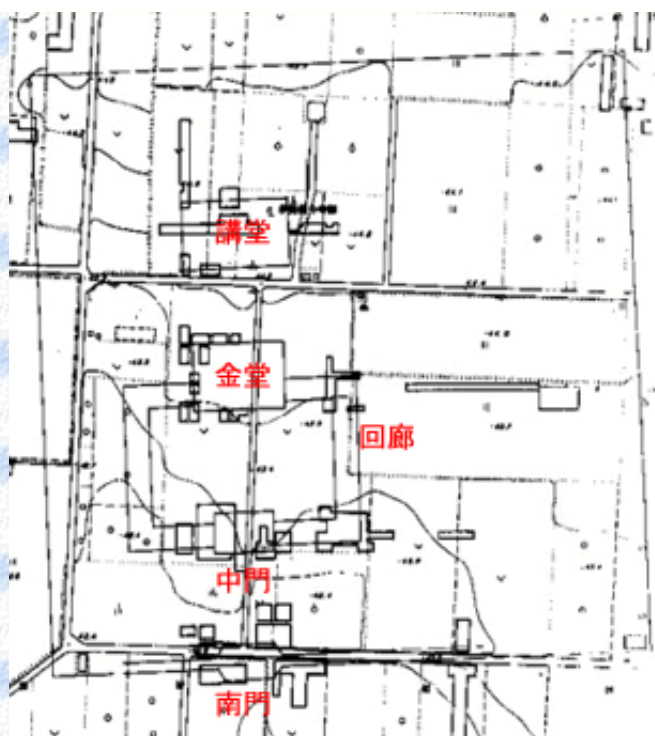
伊勢国分寺跡25-2次

鈴鹿市国分町字堂跡・西高木

南門跡の調査を進めてきましたが、年度末ということで調査は一段落。シートをかけて保存し次年度の28次調査にバトンタッチします。南門基壇はいよいよ削平を強く受けており、基礎地形(地業)の痕跡さえ見出せません。何とか残っている外周溝によって基壇の規模は確認できます。しかし、溝によって区画される基壇の平面形が長方形でなく東西に長い扁平な六角形(?)という他に類を見ない状況になってきましたので、さらに、慎重に調査を進める予定です。



南門基壇北西隅



伊勢国分寺跡伽藍配置図

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成13年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#)

3/5更新

天王遺跡(8次)

岸岡町字天王（厚生病院内）

大溝の掘削もほぼ完了し調査はいよいよ最終段階に入りました。3月中旬に調査区全体の航空写真撮影と測量を行い終了の予定です。現地説明会の予定が決まりましたらお知らせいたします。



大溝断面(黒色土層が古墳時代後期、下に前期の層)



ほぼ掘りあがった大溝

伊勢国分寺跡25－2次

鈴鹿市国分町字堂跡・西高木

今年度の調査はすでに中門・回廊の規模を明らかにして一段落と考えていましたが、来年度以降の調査計画の絡みから、もう少し追加の調査を行うことにしました。調査対象は、過去の調査からおおよその位置がわかっている南門の規模を確認しようとするものです。ただし、ちょうど真上に現在も使用されている道路や溝があり調査区の確保には苦勞しています。

また、史跡整備計画策定に必要な詳細地形図（1/500）の測量も行いました。



調査区遠景



南門南西部の調査

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成13年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#)

2/5更新

天王遺跡(8次)

岸岡町字天王（厚生病院内）

引き続き大溝の掘り下げが続いています。6世紀後半から7世紀初頭の須恵器がまとめて出土する黒色土層が最下層と考えていましたが、さらにその下からS字口縁台付甕や二重口縁の壺などが出土し始めました。古墳時代初頭に掘られた大溝が数百年にわたり再掘削されながら利用されていたのでしょうか。

溝の埋土を掘り抜いて設けられた井戸も検出されました。



大溝底部出土の弥生末頃の土器



井戸

長者屋敷遺跡(伊勢国府跡)第13次

広瀬町字仲起

ようやく発掘調査は終了しました。築地または土塁の側溝とみられている2条の溝がどこまで延びているかを調べるために、さらに西側に1箇所調査区を設け調査を行ったところ、溝はちょうど門と想定している部分の中心から西に60mの地点で途切れていました。結果として、およそ120mの四方に区画された院の存在が推定できます。

1月23日に記者発表を行い、1月26日午後2時から現地説明会を開催しました。今にも時雨が降り出しそうな天候にもかかわらず約80名の方の参加がありました。

現地説明会資料は [こちら](#)

閲覧にはAdobe社のAcrobat Readerが必要です。



門跡(南から)



現地説明会

国分西遺跡

国分町字西浦

個人住宅に伴う発掘調査です。検出遺構は掘立柱建物に伴う柱穴および大・小2基の土坑です。土坑には、瓦片が多数詰まっていた。一緒に出土した土器から年代は平安時代末頃とみられます。国分尼寺のものと思われる外圍に唐草文をめぐらせた軒丸瓦も出土

しています。おそらく、この土坑は東に隣接する国分尼寺跡の不要な瓦を処理するためのものでしょう。また、大きい方の土坑の底部からはスラグ(鉄さい)や炉壁等がまとまって出土しています。付近に金属器の鑄造や鍛冶の工房が存在した可能性が高いと見られます。



作業風景



炉壁

長者屋敷遺跡(伊勢国府跡)第14次

広瀬町字中土居

茶畑の造成に伴い緊急調査を行いました。調査地点は第13次調査の調査区の西約200mの地点です。検出された遺構は礎石瓦葺き建物SB131と、溝2条です。

建物SB131は過去の天地返しによってひどく攪乱されていましたが、瓦を含む外周溝がかろうじて残っていたことから確認できました。おそらく南北棟の建物の北妻部分で、幅は約15m(50尺)です。館または曹司を構成する建物群の一部でしょう。遺物は外周溝と周囲の攪乱から瓦が土嚢袋に30袋ほど出土しましたが、軒瓦はみられませんでした。

溝2条は、建物から西に約15mほど離れて見つかりました。内溝SB129は幅2.0～2.6m、深さ0.6m。外溝SB130は幅0.5m、深さ0.4m。両者の幅は、3.2m～3.6mを測ります。これらの溝は、建物SB131を含めた館または曹司ブロックの西側を区画する土塁または築地の両側溝とみられます。



南北溝(土塁?)の検出状況



建物SB131

国分東遺跡

国分町字東浦

調査主体：三重県埋蔵文化財センター

まもなく調査が終わる予定です。検出された遺構は奈良時代の竪穴住居、掘立柱建物、土坑および鎌倉時代から室町時代にかけての掘立柱建物、溝、土坑です。



竖穴住居



掘立柱建物

.....
八重垣神社遺跡

十宮町字宮ノ前

調査主体：三重県埋蔵文化財センター

調査はほぼ終了して、下層遺構の有無を確認するための大規模な断ち割り調査が行われています。



断ち割り調査

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)
"index.html">ホームページに戻る

発掘ニュース

平成13年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#)

1/5更新

天王遺跡(8次)

岸岡町字天王（厚生病院内）

大溝以外にも、掘立柱建物の柱穴や竪穴住居跡など遺構の掘り下げがずいぶん進んできました。

大溝からは土錘（網のおもり）がまとまって出土しました。海岸に近いだけに海の暮らしとのつながりがうかがえます。



土錘の出土



検出された竪穴住居

長者屋敷遺跡(伊勢国府跡)第13次

広瀬町字仲起

築地または土塁に伴う二条の溝の掘り下げが進んできました。瓦もまとまって出土しています。

溝の切れた部分(門推定地)には浅い方形の落ち込みが見られ基壇の基礎地形（きそちぎょう）の痕跡と思われます。

規模を確認するため、さらに西側に調査区を広げる予定です。



瓦の出土



基礎地形(?)

国分東遺跡遺跡

国分町字東浦調査主体：三重県埋蔵文化財センター

県道鈴鹿四日市環状線の改良（バイパス）事業に伴う国分東遺跡の発掘調査が始まりました。調査区の北側ではすでに2次の発掘調査が行われ、今回で完了となります。遺構検出が始まって多数のピットと竪穴住居らしい落ち込みがすがたを表し始めています。1月末まで調査の予定です。



多数のピット



竪穴住居？

八重垣神社遺跡

十宮町字宮ノ前調査主体：三重県埋蔵文化財センター

調査は急ピッチで進められています。多数の溝や土坑そして竪穴住居が検出され、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての土器が出土しています。また、新たに流路（旧河道）の掘り下げが始まり、昨年に引き続き多数の木器の出土が期待できそうです。



竪穴住居群？



河道を掘り下げる

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成13年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#)

12/5更新

天王遺跡(8次)

岸岡町字天王（厚生病院内）

まだ、全体の1/4程度を開けたのですが、北西方向から南東方向に向かって大溝が検出されました。幅2～3mの溝が何度も掘り直されて、全体として10mの幅になっています。

この他にも、大溝に流れ込む溝・竪穴住居や掘立柱建物の柱穴が検出されています。



大溝の発掘作業



大溝の断面

長者屋敷遺跡（伊勢国府跡 第13次）

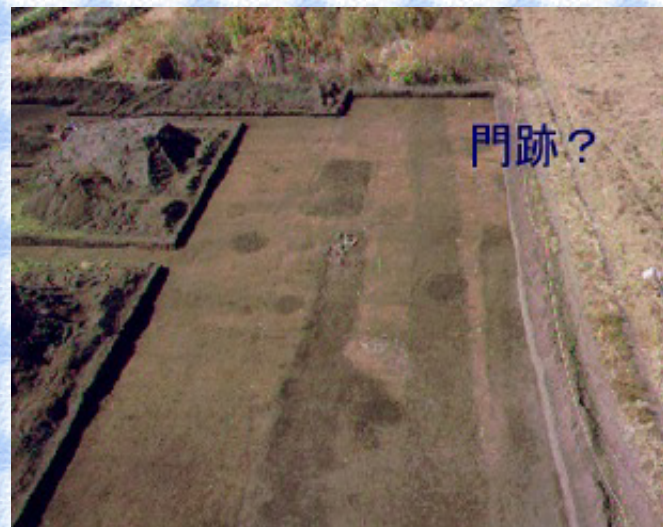
広瀬町字仲起

先月の調査で確認された溝の続きを追うために、西側の土地を新たにお借りして調査を続けています。新たな調査区では、2条の溝が3mの間隔をおいて平行しています。この調査区の北側では国司館とみられる大型の建物群が発見されていますので、それに伴う築地あるいは土塁の側溝ではないかと考えています。

この溝は調査区の西側で途切れており、その部分に門があったのではないかと考えて、基礎地形(地盤改良)や足場穴などの痕跡がないが精査を続けています。



溝の断面



2条の溝検出状況

八重垣神社遺跡

十宮町字宮ノ前 調査主体：三重県埋蔵文化財センター

ほ場整備事業に伴う八重垣神社遺跡の発掘調査が始まりました。調査区は、八重垣神社のすぐ西側です。現在、多数の溝や土坑等が検出され、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての土器がたくさん顔を除かせていて、調査の進展が楽しみです。



調査区遠景



作業風景

伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）が国の史跡に

11月16日、国の文化財審議会は伊勢国府跡を国の史跡に指定することを答申しました。発掘調査を始めて10年、次々と発見された国府政庁と国司館と見られる大型礎石瓦葺き建物群といった遺構の重要性が認められたことになります。正式な指定は官報告示によることになります。



黄線は史跡指定（予定）範囲

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成13年度 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

11/5更新

天王遺跡(8次)

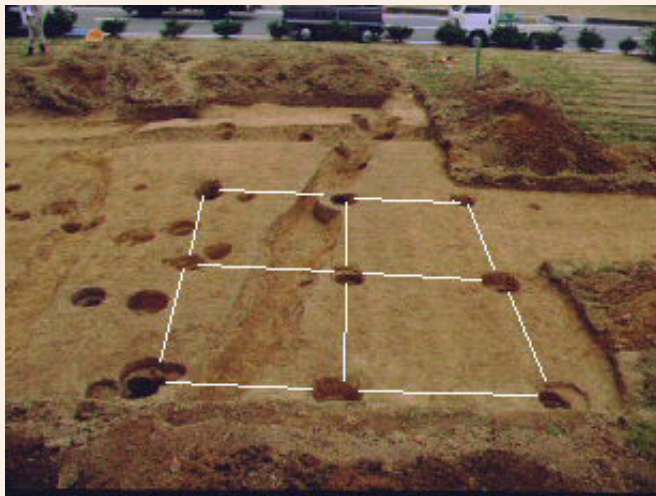
病院の改築に伴い発掘調査を実施します。調査は10月31日から着手したばかりで、2月末頃まで続く予定です。



表土除去作業

中瀬古南遺跡

個人の事務所建築に先立ち調査が行われました。時期不明の掘立柱建物2棟、古墳時代の溝2条、中世の溝2条が検出されました。



掘立柱建物

調査区全景

国史跡 伊勢国分寺跡(第25次)

現地説明会を10月6日(土)に開催し、58名の参加者がありました。その後、補足的な調査を行った後に、山砂で遺構を保護しつつ埋め戻しを行いました。

現地説明会の資料はこちらpdfファイル(576kb)



現地説明会

出土遺物が集合(瓦片は土嚢袋で164袋)

長者屋敷遺跡（伊勢国府跡 第13次）

過去の耕作によって攪乱をうけていましたが、かろうじて溝が確認できました。その溝からは重圏文軒丸瓦、重廓文軒平瓦が出土しました。



作業風景



[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成13年度 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

10/5更新

国史跡 伊勢国分寺跡(第25次)

中門・回廊の規模もほぼ確定し調査は最終段階です。現地説明会を10月6日(土)午後2時から開催します。

塔の位置については、今までに判明した伽藍配置と瓦の散布状況からみて、金堂の東に来る陸奥国分僧寺タイプの配置になりそうですが、推定地がただいまコスモス畑として利用中なので、確認調査は来年に持ち越しになりました。残念。



東回廊南東コーナー



西回廊と中門

長者屋敷遺跡(伊勢国府跡 第13次)

9月21日から耕作土の除去を行いました。10月から、いよいよ本格的な調査が始まります。



作業風景

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[平成13年10月のニュース](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成13年度 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

9/5更新

国史跡 伊勢国分寺跡(第25次)

回廊の東辺のコーナー部が検出できました。これでようやく国分寺跡の中心伽藍の配置と規模が確定し、他の国分寺跡との比較がやりやすくなります。のこる焦点は塔跡ですが、これはまだ手がかりに乏しく苦労しそうです。

現地説明会は、日程が正式に決まりましたらまたお知らせします。



回廊南東のコーナー(内辺)

教員研修で体験発掘中

長者屋敷遺跡 (伊勢国府跡 第13次)

今年も9月下旬から調査を始めます。今回の調査区は政庁から150mほど北へ離れたところになります。



中央の森が政庁です。

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#)

[現地説明会資料収蔵庫](#)

平成13年9月のニュース

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成13年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#)

8/5更新

国史跡 伊勢国分寺跡(第25次)

国分寺跡の調査もかなり進み、第一の目標としていた中門の位置・規模がほぼ確認できました。ただし、遺構は耕作などにより地上部分はもちろん地下部分も削平されていて、かろうじて基礎地形(ちぎょう：地下の地盤改良)の最下部がわずかに残っているのみでした。

現在、中門に取り付いている回廊の規模を確認するための調査を継続中です。現地説明会は9月中旬を予定しています。



中門と回廊



出土した軒瓦

国分町国分西遺跡

国分西遺跡は伊勢国分寺跡のすぐ東側に位置します。今回、個人住宅の建築に伴い、調査を行いました。調査の結果、溝、土坑などが確認されました。遺構は主に中世のものですが、含まれる遺物には尼寺のものとみられる軒瓦など多数の瓦があり、国分尼寺寺域の西縁に当たると考えられます。



調査区



軒丸瓦



文字瓦「上」



文字瓦「百」

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成13年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#)

7/5更新

国史跡 伊勢国分寺跡(第25次)

国分寺跡の調査が始まっています。まずはじめに中門(ちゅうもん)推定地の西半分をグリッド(方眼)方式で徐々に広げながら掘っています。中門や回廊に伴うとみられる瓦を多く含んだ溝状の遺構が検出され始めています。



作業風景



調査区全景

岸岡町天王遺跡

6月19日に調査は終了しました。調査の結果、飛鳥～奈良時代にかけての掘立柱建物4棟・柵1条のほか、溝・土坑墓などが検出されました。



雨が降るとこのような状態になってしまいました。



柱の痕跡がはっきり見えます。



調査区全景



隣接する体育館の屋根の上から写真撮影をしました。



屋根の上からはこのように見えます。

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[平成13年7月のニュース](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成13年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#)

6/5更新

加佐登町白鳥中学校遺跡

調査は5月28日に終了しました。今回の調査では中世の溝が確認されました。



岸岡町天王遺跡

天王遺跡は過去に6次にわたり、発掘調査が行われ、飛鳥時代から奈良時代にかけての掘立柱建物や古墳時代後期以降の大溝などが確認されています。今回の調査でも掘立柱建物が確認されています。また、土坑墓と考えられる遺構も確認されています。





[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[平成13年6月のニュース](#)

[ホームページに戻る](#)

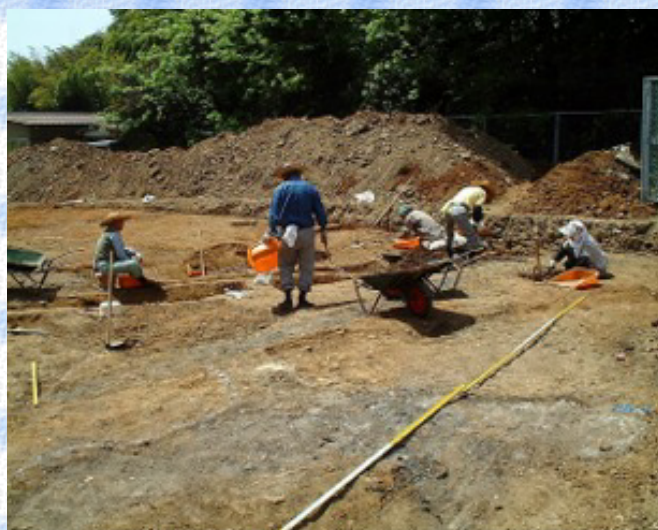
発掘ニュース

平成13年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#)

5/5更新

加佐登町白鳥中学校遺跡

白鳥中学校にはかつて加佐登6号墳が存在し、校舎建設の際に調査されました。白鳥中学校遺跡は加佐登古墳群などに関係する遺構が広がっているだろうと考えられています。今回、体育館の改築に伴い、4月13日から調査が始まりました。



[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[平成13年5月のニュース](#)

[ホームページに戻る](#)